

夏用手袋の紫外線遮へい効果

すき間のないものを選ぶ

黒色はカット率やや上

紫外線対策のため、運転や外出時に夏用手袋を利用する人が増えています。しかし、どの程度紫外線を遮へいできるのか、色や厚みや編み方でちがうのか、洗濯で遮へい率が落ちないのかなど、消費者にはなかなかわかりません。そこでこれらの点について11銘柄をテストしました。

なお、本テストは独立行政法人製品評価技術基盤機構の支援のもとに行いました。

紫外線遮へい率

11銘柄の紫外線遮へい率をテストし、その結果を下のグラフに表しました。(No.1～No.7の7銘柄は色違いの2点ずつをテストしたため全部で18点。)

遮へい率は、もっとも高かったもので99.8% (No.8)、もっとも低かったもので60.3% (No.1の白) でした。なお、No.1は紫外線遮へい効果をうたっていませんでした。

テスト結果から、編み方、色、生地の組成、密度や厚さ、洗濯回数などと遮へい率の関係



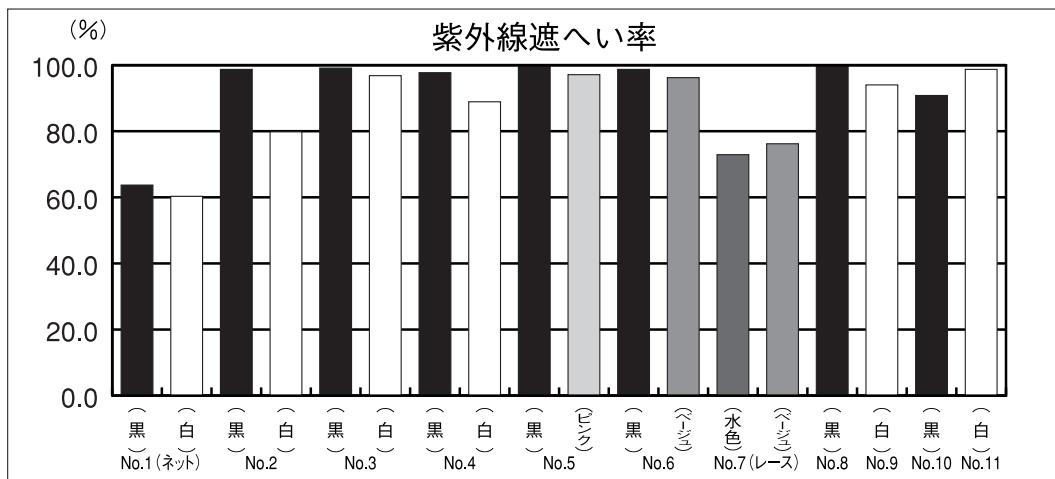
を考察しました。

①**編み方** 遮へい率がもっとも低かったのはネット編 (No.1)、ついで低かったのはレース編み (No.7) の製品でした。これらはすき間が多いため、遮へい率が低かったと考えられます。

②**色の濃淡** 色違いの銘柄は、黒など濃い色のほうが薄い色の紫外線遮へい率を若干上回りました。

③**生地の厚さや密度** 厚めの手袋は遮へい率が高いと考えられがちですが、明確な相関性はありませんでした。密度の低いものは若干遮へい率も低い傾向にありました。

④**繊維の種類** 一般に、ポリエステルは綿や



絹と比較して紫外線遮へい率が高いとされていますが、テストではポリエステル100%でも低い製品もあり、はっきりした相関性は認められませんでした。

⑤洗濯回数 新品時と比較して洗濯20回後の紫外線遮へい率はほとんど同じかやや上昇する傾向にありました。洗濯ですき間が詰まったためと考えられます。

⑥表示 11銘柄中3銘柄(No 1, 2, 4)以外は「紫外線遮へい効果」をうたっていました。効果をうたった製品でも、レース編みのものは遮へい率が劣りました。

⑦紫外線の波長 地上にとどく紫外線は、波長がやや長め(波長:320nm~400nm)で日常生活で浴びる機会の多いA波と、やや短いB波(280nm~320nm)があります。それぞれに対する遮へい率を測定したところ、濃い色はA波、B波とも遮へい効果がありましたが、薄い色はA波の遮へい率が低くなる傾向がありました。

※1nm(ナノメートル)は百万分の1mmのこと

その他のテスト

外観や縫製は問題ありませんでした。

家庭用品品質表示法に定められている表示者名・連絡先がないものが1銘柄、連絡先が

ないものが1銘柄ありました。

洗濯を20回繰り返すことによる変化を観察しましたが、黒絹100%の1銘柄が10回後の洗濯でやや色あせしましたが、ほかはいずれも問題ありませんでした。この製品は、汗による色あせも若干見られました。

ネットを使用して洗濯すると、使用しないときよりも寸法の変化が少なくなる傾向が認められました。

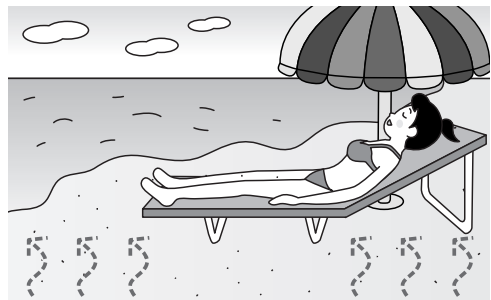
購入・着用する時は—

- 紫外線遮へい表示があっても、ネット編やレース編など生地にすき間の多い手袋は遮へい率が低いので、すき間のない構造のものを選びましょう。
- 黒など濃い色の手袋は、ある程度の密度があれば紫外線遮へい効果があります。
- 白や薄い色の手袋は、紫外線遮へい率が濃い色より若干劣るので、紫外線遮へい加工表示のあるものを選びましょう。
- 着用して汗ばんだときは、汗と光の複合作用で変色することがあるので、放置せずすぐ洗濯しましょう。
- 洗濯では、色あせや寸法変化を抑えるためにネットを使用するとよいでしょう。

地面からの照り返しにも防ぎよを

紫外線を防ぐ方法は、2つあります。1つは、紫外線を吸収して、肌にまで届かせない方法で、もう一つは紫外線を反射させて散乱させる方法です。紫外線カット加工の手袋や日傘、日焼け止めクリームなどはこのような紫外線吸収剤や紫外線反射剤を使っています。

紫外線には反射する性質があります。日傘やつばの広い帽子は上からの紫外線カットに有効ですが、足下から照り返す紫外線は防げません。日差しの強い日の外出は、長そ



でを着るなどできるだけ露出を少なくし、日焼け止めクリームを塗ることが有効です。